

## ✿ 隋唐墓出土副葬品の調査

遼寧省文物考古研究所との共同研究では、2006年度から遼寧省の隋唐墓出土副葬品の調査・整理・研究をおこなっていますが、本年度も10月ならびに来年3月に遼寧省瀋陽市での調査を予定しています。それに先立ち、遼寧省文物考古研究所を訪問し、田立坤所長と今年度の具体的な調査計画について協議しました。今年度は特に、理化学的分析調査も計画しており、その準備を進めているところです。

それに関連して、昨年度2月に天理大学附属天理参考館のご協力を得て、天理参考館所蔵の陶俑を調査しました。これは現地での本格的な調査の下準備を兼ねて、主として熟覧による調書作成や写真撮影をおこないました。今年度は6月23・24日の2日間にわたり、所外の研究者も含めて7名の調査者で、蛍光X線分析やマイクروسコープによる観察、赤外線写真撮影と3Dデジタイザによる計測をおこないました。

天理参考館所蔵の陶俑には、駱駝・猪・犬・牛などの動物俑や、甲冑武人・胡人・文官などの人物俑というように、様々なものがありますが、今回はそれらのうち15点の陶俑について調査し、分析結果を現在、解析、整理しているところです。

これらの資料は、遼寧省朝陽市隋唐墓出土陶俑によく似ており、産地が同じものも含まれているのではないかと思います。10月に予定している瀋陽市での調査でも同様の分析調査を計画しており、今回の天理参考館所蔵品の分析結果と、遼寧省出土品の分析結果との比較から、何か興味ある事実が明らかになるのではないかと期待しています。また今回、新型の携帯式蛍光X線分析装置も試験的に使用して、その実用性を確かめるために、従来型の小型蛍光X線分析装置の分析結果との比較もおこなっているところです。 (企画調整部 小池 伸彦)



3Dデジタイザによる駱駝俑の計測